



## 町長エッセイ



小川盆地を取り囲む山々の緑の景観は、春秋の彩りとともに小川町の特徴です。しかし、森林・林業に着目すると、広がった人工林・間伐材の用途など、課題が多いのが現状です。

町域で中山間地に位置する木呂子地区の町有林で、地元竹沢小学校の3・4年生を対象に「森林保全学習」が行われました。

埼玉県寄居林業事務所、埼玉中央部森林組合の協力で実施され、児童たちは森林の大切さを学習した後、木の匂い

をかぎ、年輪を数え、実際にノコギリを使って間伐材の丸太切りも体験しました。

児童たちが生まれ育ち、いつも見ている山の木や森林について学ぶことは、自然の大切さを知ることにつながると確信しました。

間伐材の一部は、整備改修が行われる（仮称）小川町子ども子育て総合センターや、旧下里分校にも積極的に活用し、多くの皆さんに、地球と人に優しい持続可能な町づくりを体感していただきたいと考えています。

松本恒夫